

活発な地域外交を展開している静岡県の川勝平太知事がスジャン・チノイ駐日インド大使と語り合った。今年の日印友好交流年。仏教文明、多様性と調和、自然と地球への畏敬(いけい)……。両国をつなぐ精神と理念とこれからの協働へ、話は尽きなかった。

仏教の共通性を力に

静岡県知事

川勝平太



Profile

静岡県知事
川勝 平太

京都市出身。早稲田大学、同大学院を経て英オックスフォード大学で博士号取得。早大教授、国際日本文化研究センター教授、静岡文化芸術大学学長などを経て2009年より現職。現在3期目。

大使の日本との
出会いはいつですか。

大使 私がインド西部のグジャラート大学の学生だった時、日本の大学との交換留学プログラムで数カ月間、日本に行きました。日本についてのエッセーコンテストの副賞で、1978年、20歳の時です。日本が経済成長のピークを迎える時で、すべてが新鮮でした。ホームステイではどの家庭も温かく迎えてくれました。帰国後も日本語と日本

文化の勉強を続け、日本からの留学生の案内をボランティアでしました。

知事にとってインドは。

知事 多くの日本人と同じく私も、仏教の慈悲の心や、マハトマ・ガンジーさんの非暴力の精神に、深く感化されています。英国に留学中、私は「いかにして英国が世界初の工業国になったのか」の研究に没頭しました。17、18世紀の英国では、王侯貴族がインドの美しい綿織物「キャラ

コ」に夢中になる「Indian Craze(インド狂い)」のブームが起きました。膨大なキャラコの輸入は、巨大な貿易赤字を生み、それを止めるため英国政府は18世紀、キャラコの輸入・使用禁止を決めました。英

国の東インド会社は欧米に販路を求め、インドのキャラコは西洋中に広がります。これに対抗し、英国は国を挙げて、インド木綿の模倣品生産に乗り出しました。これが技術革新を生み出しました。英国の産業革命はインドに

追いつこうとした結果です。

大使 知事の深い知識には驚かされます。キャラコという英語の由来はカリカットというインド西部の港町の名前で、ここから綿製品が世界に輸出されました。

知事 明治期の日本は、インドから膨大な綿花・綿糸が流入し、赤字になりました。これに対抗し、日本はインドの綿花を原料にして紡績業をおこしました。日本の産業革命もインドに追いつこうとした結果です。私はイ

ンドに出かけ、ムンバイ紡績連合協会の資料を読み込み、その事実を突き止めました。アーメダバードのキャラコ博物館の美しい綿織物も見ました。インドこそ、英国と日本の産業革命の生みの親です。人類の精神史はもとより、近代の経済史にも、インドは絶大な役割を果たしてきました。

紀に中国に渡ってサンスクリット語で「ディヤーナ」仏教と呼ばれる理論を打ち立てました。ディヤーナとは精神集中と瞑想(めいそう)のことです。それが日本で禅になりました。菩提達磨は「だるま」形で知られます。空海も両国を結びつけました。9世紀に中国に渡り、インドから中国にもたらされていた法華経を持ち帰り、真言宗という密教を日本に定着させました。密教にはヒンズー教の要素が多々あります。また梵字(ぼんじ)とい

う古代サンスクリット文字はインドでは失われましたが、日本には残っています。平和と非暴力の哲学を持つ仏教の理念は、ガンジーの非暴力・不服従運動(サティヤグラハ)にも影響を与えました。

濟宗の二つの宗派が活動しています。仏教は日本人の心の糧です。
大使 日本は世界のどこよりも仏教の伝統を保っています。一般の人も仏教や神道の伝統の最良のものを身に着けて日常生活や習慣に生かしていますと感じます。
知事 インド西部ではヒンズー教、イスラム教、キリスト教、ゾロアスター教などが共存しています。異なる宗教の平和共存です。多様性の和のモデルです。

医療分野など連携を

駐日インド大使

スジャン・チノイ氏



Profile

駐日インド大使

スジャン・チノイ氏

インド・グジャラート州出身。マハラジャ・サヤジラオ大学、グジャラート大学を経て1981年インド外務省に入省。駐上海総領事、駐シドニー総領事、駐メキシコ大使などを歴任。2015年12月より現職。

大使 私はそのインド西部グジャラート州出身なのでよく分かります。古代からインドは多くの民族を受け入れてきました。6000年前にアーリア人、紀元前4〜3世紀にアレキサンダー大王とギリシヤ人。2世紀にはユダヤ人が逃げてきました。いまもシナゴーク(ユダヤ教会)があります。イエスの使徒の聖トマスは紀元52年、チェンナイで亡くなりました。キリスト教もインドで2000年の歴史です。

世界の重要な宗教も生んでいます。仏教、仏教よりも古いジャイナ教。中世にはシーク教、世界で2番目に大きいイスラム教徒人口も抱えています。これらがインドの精神の下で共存しています。もしインドが日本の美德である、一つの目的に向かう集中力、献身、自中心、相互理解を学んだら、もっと豊かになるでしょう。

知事 最近、グジャラートで良いニュースがありました。浜松市に本社のあるスズキのインド法人が、2月にグジャラート州で新工場を稼働させました。

大使 スズキのシェアは47%です。私も本所で鈴木修会長とお会いした時、「鈴木会長がインドで選挙に立候補したら、絶対に勝ちます。スズキの名前は皆、知っていますから」と話しました(笑い)。インドのマルチ・スズキは120カ国に輸出しています。また、静岡に本社のあるヤマハ発動機もインドに進出しています。

知事 インド出身で、日本でホテルを運営するHMI(本社・兵庫県)の比良竜虎社長(在日インド商工協会会長)は、経営が行き詰まった浜松市の二つのホテルの運営、さらに掛川市の総合リゾート施設「つま恋」の運営も引き受けてくださいました。大使が日本に赴任された時、大使の歓迎会に誘ってくださったのも比良社長です。

大使 昨年2月、知事は私の歓迎会で「ぜひ静岡県に来てください。静岡県は幸運をもたらします。幸運を得たインドの方もおられます」とおっしゃいました。その人物とは、2012年に浜松を訪れた当時、グジャラート州首相だったモディ氏でしょう。静岡を訪問したおかげで、14年にインドの首相になり、幸運を手に入れました。

知事 大使には今年1月23、24の両日、在京大使館静岡県視察ツアーで本県に来ていただきました。当日は快晴で、美しい富士山が大使を歓迎しました。

大使 富士山は私にとって日本の精神と魂の象徴です。インド人にとって日本は富士山のイメージと分かちがたく結びついています。

知事 2月23日は「富士山の日」です。皇太子さまの誕生日でもあります。皇太子さまは、富士山登頂に成功された時の感激をお歌に詠まれています。

大使 視察は大変良かったです。アサヒ飲料の工場は富士山の帯水層から湧いてくる純度の高く、地域間の外交を広げていくべき時代です。テランガナ州は静岡県にとって良い候補だと思えます。州都ハイデラバードはハイテク都市として知られています。話は変わりますが、2月17日に県主催で「静岡アジアフォーラム」を開催した際に、ガンジーさんのお孫さんのラジモハン・ガンジー氏(平和活動家・元上院議員)がご夫人と来日され、講演されました。



水を使っていて、それは自然の豊かさと思ふそのものです。さらに感動したのはリサイクルシステムを作っている丸富製紙工場です。日本には地球への尊敬と、自然への畏敬の念があります。また、日本はガンジーの精神と理念を実践しています。農業も豊かで、私はおいしい静岡の緑茶もワサビも大好きです。

知事 大使に気に入っていただきうれしいです。

大使 東京に戻るとテランガナ州のラマ・ラオ大臣が来日しました。40歳と若い大臣で、IT、都市開発など4分野を担当しています。3日間一緒に過ごし、私

から静岡県について説明しました。14年に誕生した同州はまだどこの地方とも提携しておらず、がん治療、医学研究で交流できればと考えています。

知事 静岡県は、医薬品と医療機器の合計生産額が日本一です。長泉町には日本有数の県立静岡がんセンターがあります。また、新しいがん治療薬「オプジーボ」は、静岡県公立大学法人理事長の本庶佑先生らが発見された免疫抑制に関わるPD-1分子をもとに、小野薬品工業が開発し、県内で生産しています。

大使 日本とインドは特別戦略的グローバルパートナーシップ

を結び、経済関係がますます活発です。日本のインドへの累積投資は200億ドル以上で、日系企業は1400社。インドは6億人が25歳以下で、毎年1200万人が労働力に加わりま

知事 賛成です。平和づくりのために、国・中央レベルだけではな

す。世界一若い国で、このトレンドが30年間続きます。さらに多様性と民主主義と国内市場規模でも優位性があります。一方で日本は技術と資本力があり、両国は地方レベルで積極的交流すべきです。地方はダイナミックで活気があり、迅速にものごとを決められます。

知事 確かに。現に幸運を手にした生き証人(モディ首相)がいますから。

(毎日新聞朝刊2017年3月26日付掲載)